

第5回 柳原地区まちづくり協議会概要

議 題	第5回 柳原地区まちづくり協議会		
日 時	令和7年（2025年）2月20日（木） 開催	場所等	千住あずま住区センター 4階会議室
出席者	足立区 （事務局）	足立区建築防災課（以下、「防災課」という。） 4名 まちづくり課（以下、「まち課」という。） 3名 災害対策課 1名 千住区民事務所 1名 コンサルタント（まちづくり研究所） 3名	
	参加者	協議会会員 10名	
資 料	次第 資料1 柳原地区まちづくり協議会名簿（会員） 資料2 千住大川端地区まちづくりについて 資料3 「柳原らしさ」・部会活動について 資料4 柳原地区まちづくりニュース第3号（案）について 第4回柳原地区まちづくり協議会議事録概要		
項番	議事・意見要約		
1	協議会下川会長 挨拶 前回から引き続き「柳原らしさ」「部会活動」について意見交換を行う予定です。他に都市計画審議会にて防災関係で柳原地区との連携について意見が出された、千住大川端地区の計画について担当部署の方から説明頂きます。今日はよろしくお願いします。		
2	足立区建築防災課小木曾課長より挨拶 今日は内容が多く、時間が限られた中ではありますが、濃く、活発な意見交換を皆さんの協力のもと進めていきたいと思います。よろしくお願いします。		
3	・資料の確認 ・個人情報の取扱いについて：来年度協議会運営支援等に入る関係者（コンサル等）に協議会員のリストを渡すため、「柳原地区まちづくり協議会 個人情報取扱方法」にもとづき、個人情報の取り扱いについて再度同意を得た。 ・退会者等について：2名退会された。 ・役員の改選について：第2回協議会資料会則第6条の定めにより、次期会長・副会長の選任を諮り、来年度はまちづくり等の活動が本格的に始まるので、役員は再任することが提案され、全員異議なしで再任された。（会長に北町会下川氏、副会長に東町会鈴木氏、西町会多氣氏、南町会小林氏が再任）		
4-1	千住大川端まちづくりについて 千住大川端地区のまちづくりについて、2025年3月の都市計画審議会へ付議するにあた		

り、隣接する柳原地区から要望等を伺いたい旨と、資料2について、配布資料に沿ってまちづくり課より説明し、質疑応答を行った。

【質疑応答】

委員：一時避難場所として地域に開放する「広場」の位置づけについて、高層住宅建築の際はセキュリティを優先して、敷地に大きな塀を建築することや、居住者のみ利用可能なエリアを作ることが多い。柳原地区の地区防災計画の中に一時避難場所として位置づけできるように居住者の方に了解を得られる形で整備していただけるものなのか。

まち課：マンション完成前に、区と開発事業者で協定を結び、管理組合に引継ぐ。分譲住宅購入者にはその内容を前提に購入頂く仕組みである。

委員：水害の際の垂直避難について、500名ほど収容できるスペースを確保とのことだが、一時的な避難施設としての利用を想定しているのか、協定を交わして他の施設のようなある程度の期間過ごせる避難所(高層階にスペース確保)として開放してもらえるのか。

まち課：平常時は各棟の集会所という扱い。水害時は一時的な避難先として機能する。避難所(一時的に生活する場所)としては小学校等の公共施設をご利用いただく。

委員：2,000戸規模の住戸と商業施設ができた場合、このエリアからの出入りで周辺道路の渋滞が発生するのではないかと。交通量調査などもしていると思うが、対策をお聞きたい。道路渋滞した場合も歩行者が柳原からアクセスできるようなデッキの整備も検討して欲しい。

まち課：現状本地区は、墨堤通り(補助第119号線)からのアクセスが悪い。1つの仕掛けとして、足立郵便局の土地の一部を買収し、幅16mの進入口を整備する予定。もう一つ住民から墨堤通りにアクセスする交差点に信号を設置してほしいという高い要望があり、西側のアクセス交差点について形状を再検討している。東側のアクセス部分に信号機を設置するのは信号間距離が非常に短くなるため設置は非常に難しいが、歩行者の安全を図れるような対策を講じていきたいと思っている。避難時に歩行者が渡れるような仕掛けについては、住民から現在請願が出ている。その中に墨堤通りを渡るペDESTリアンデッキ建設案がでている。区として設置の必要性検討を含めて交通量調査を令和7年度実施予定。

委員：(資料5頁)現在の計画では東西に抜けられるバイパス道路を関屋公園で潰すことになっている。渋滞を引き起こす形を危惧している。

まち課：関屋公園のバイパス道路は廃止予定。平常時、人・自転車は関屋公園を通り抜けできる。災害時には防災上の観点から、緊急車両が通行できるようにしていきたいと思っている。

委員：管理組合は各棟にそれぞれ設立するのか、まとめて1つ設立するのか。

まち課：管理組合は各棟にそれぞれ設立されると聞いている。防災の協定や使用方法について、5つの管理組合と協議するのも大変なので、例えば5つの管理組合の窓口を1本化するなど、仕組みづくりを事業者をお願いしている。

委員：各自治会の地区防災計画(3年に1回見直し)へ位置づける場合、調整が必要になるのか。地区防災計画に盛り込みたい具体的な内容を開発業者に伝えて検討が始まるということか。

まち課：受け入れ側の了解も必要だと思うので、例えば柳原地区の方から地区防災計画に位置づけたいという要望を開発業者に伝えて了承を得てから位置づけることになると思う。

委員：今後の都市計画審議会ではどのような説明をされるつもりか。

まち課：今日すべてのご意見を頂けるわけではないと思っている。今後柳原地区まちづくりをご検討いただく中で要望が出るなど考慮し、継続的に検討していきたいと思っている。都市

	計画審議会では、再開発施行まで時間があるため、地域の方と意見交換を続け、話し合いを進めていきたいと報告する予定である。
4-2	「柳原らしさ」・部会活動について（グループごとに意見交換） 資料3について、配布資料とスライドにてまちづくり研究所より説明し、2グループに分かれて意見交換を行った。 【グループA】 <柳原東町会の防災活動について> ・東町会では半年に1回千草園で防災訓練（消防署や消防団、町会にいる防災士の指導、D級ポンプやスタンドパイプによる放水、発電機、チェーンソー稼働、消火器訓練等）を実施しており、30名程度が参加。町会以外の飛び入り参加も可能。また、2年に1回救急救命の訓練を実施。 ・月1回程度、役員でポンプのエンジン点検なども行っている。 <避難所運営について> ・千寿桜堤中学校での避難所運営訓練は、コロナ前は東西南北4町会合同で実施。200～300人が集まっていた。いずれ再開する予定。 ・避難所運営では、トイレをどうするか、ペット連れの対応、遺体安置所のことなど、具体的なケースを想定して行わないとまらない（コンサル）。 <課題> ・協議会は現在20名弱で構成されているが、部会活動を具体化するなら、もっと人を増やさないと難しいだろう。とくに若い方に入ってもらいたい。 ・町会の回覧板は内容を確認しない方が6割程度で、周知には苦勞している。 ・大きな地震の後の訓練では多くの人に参加するが、1年程度経つと関心が薄れることが実態である。 <提案> ・積極的にやっている町会の防災訓練を発展させて、部会活動とすることも1案。周知の手段として協議会のまちづくりニュースを活用することもできる（区）。 ・炊き出し訓練など、美味しいものが食べられるとなるとたくさん人は来るだろう。 ・千草園前の道路の拡幅（令和7年度に千草園の拡張工事の基本設計、令和8年度に詳細設計、令和9年度に改修工事の想定）に合わせ、防災機能を少し付与して、かまどベンチの設置や飲料水タンク、簡易的な備蓄倉庫の設置などを「公園利用部会」とか「既存公園整備部会」など、部会で検討してはどうかと提案したい。新たな公園を整備するとなると長期的で難しいので、既存公園の活用を考えたい。 【グループB】 <子どもの遊び場・特に千草園> ・子どもの遊び場が少ない。千住旭公園の太郎山でボール遊びはできる。柳原一丁目児童遊園は幼稚園児が遊んでいるが、小学生があまりいない。 ・千草園は子ども達がザリガニなどに触れるには良い機会だが、水草を全て食べられた。特定外来生物に指定されているので、他の生物とエリアを分けて整備するなど工夫してはどうか。 ・ヒキガエルが春先に大量に産卵する。アカミミガメも多くいたが駆除された。アブラコウモリ

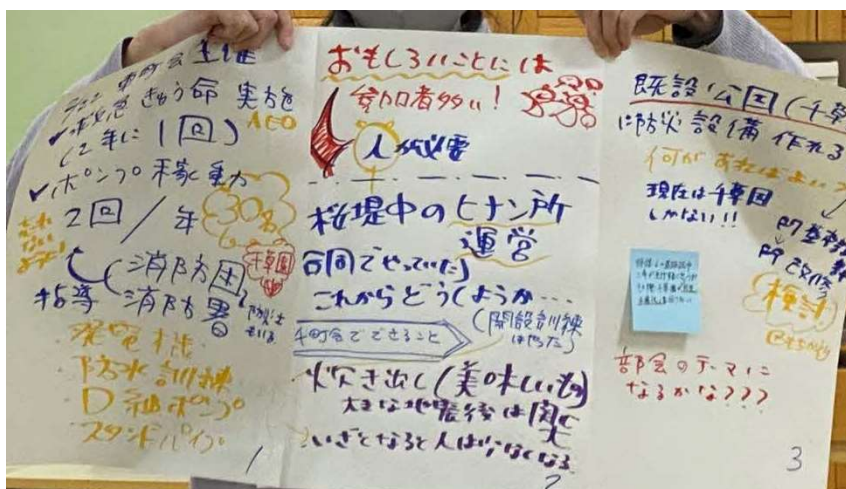
	が6-7月夕方に飛んでいる。 ・子どもたちと一緒に虫取り体験などできないか(コンサル)。 ・小学校3年生の学習指導要領に地域の学習があるので、その気になれば地域での交流ができるはずだが、先生方が忙しく難しい。 ・地域で子どもが交流する機会があるといい。南町会エリアの子ども会に頑張ってもらっている。 ・子供たちが自然と触れ合える場として整備したり、それぞれの目的別に部会を作って、地域の人々の交流の場として活用する部会はどうか。 <千草園について> ・柳原千草園は元々丸三製紙株式会社千住工場の跡地で、周辺の道路は非常に狭く車が通れなかった。千草園は大きな公園だが、あまり地域の方は活用されていないのか。 ・一斉に整備は難しいが、一部をビオトープにするなど少しずつ改良していけばよいのでは。 ・千草園は荒川河川敷が近く、生物がやってくるなどの自然豊かな環境のため、防災拠点としての活用だけではなく、様々な生き物に触れ合う場所として整備するのが良いのではないかと思う。公園は人を募って興味ある人たちでアイデアを出し合って、多目的に様々な立場から考えるのがよい。 <清掃> ・割れ窓理論で、町内全域一斉清掃をしてはどうか。その後、懇親会などしてはどうか。街がきれいになって、一体感もでる。(西町会では一斉清掃を実施した。町会関係なく参加可能。) ・ごみ拾いをした後、どこにどのようなごみが多かったか共有してはどうか。 ・大踏切通り(昔は疎開道路と呼ばれていた)の掃除をシルバー人材センターから派遣された人がしている。ごみは植え込みの中に多く捨てられている。 ・地区で一斉清掃を行うなど、各町内会で別々に行っている行事を柳原地区全体で行うことで、地区の課題もわかり連携が産まれるのではないか。 <公園の管理> ・柳原二丁目児童遊園の清掃については協定を結び、区から委託されて北町会が管理している。 ・柳原千草園はシルバー人材センターの人が派遣されて清掃している。
5	まちづくりニュースの案について 防災課：令和7年4月から住宅市街地総合整備事業(密集住宅市街地整備型)が始まり、6月には防災街区整備地区計画が決定される。道路拡幅・プチテラス・公園用地の提供を検討いただけそうな方にはお声がけのご協力をお願いしたい。 委員：実際に既に測量や相談等の対応をしているニュアンスや表現を入れてアピールしてはどうか。このままだと動いているかどうか伝わらない。 防災課：他地区では具体的に整備できたところをまちづくりニュースに載せている。交渉途中だと頓挫する可能性もあるので、どこまでご案内するかは検討が必要。ニュースやHPで具体的にまちづくりが進んでいるということが伝わるように表現を検討する。
6	部会活動のメンバーについて 委員：部会活動が決まったら、部会のメンバーは協議会員以外に募ることになるのか。協議会が高齢者が多いので、若い人を入れて動いてもらいたい。現役で仕事されている方はたいへんだと思うが、募る方法を検討してほしい。 防災課：そうなる。現在協議会員20名だが、協議会員のみで部会を設立しても継続することは難しいと考えている。部会員をどのように募るかの手法についても協議会の中で話し合いできればと考えている。 コンサル：まちづくりニュースは地区内全戸配布なので、部会のメンバーを募る際には、まちづくりニュースにも記載できる。ただし、地元の方の声掛けの方が影響は大きいと思う。

事務連絡

- ・次回協議会の日程は未定。年度が替わるので少し時間が空くが、決まり次第案内をする。

(参考 グループ毎の意見交換メモ)

グループAのメモ



グループBのメモ

